

# 科学教育 振興助成

子どもたちの論理的思考力や、創造性の成長を促すため科学教育振興を目的とした、小中高校における取組に対して助成します。



対象

## 小・中・高などの教育機関

### 個別校助成

#### 助成対象

小学校、中学校、高等学校等における児童・生徒の科学に対する関心を高める授業やクラブ活動等  
※地域特性を活かした取組を重視します。

#### 助成金額

最大**30万円**×**1年間**

#### 応募資格

上記の企画と実施に取り組む小学校、中学校、高等学校等。  
※原則、大学や教育センターからの応募はできません。

### 複数校連携助成

#### 助成対象

小学校、中学校、高等学校等の**複数校が連携**して、児童・生徒が主体的に**共同で実施**する科学に対する関心を高める2年間の活動  
※地域特性を活かした取組を重視します。

#### 助成金額

最大**100万円**×**2年間**

#### 応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校。  
※原則、大学や教育センターからの応募はできません。  
※2年間継続して活動いただける組織に限ります。

### 教員支援助成

#### 助成対象

子どもたちの理科の力を向上させるための指導法改善や教材の開発などに取り組む意欲的な**小中学校の教員**を支援する3年間の活動

#### 助成金額

最大**100万円**×**3年間**

#### 応募資格

上記の活動の企画・運営を行う代表校または、機関、コンソーシアムの代表。  
※原則、地方自治体からの応募はできません。教育センターからの応募は可能です。  
※教員の自主的な研究会は、組織体として整備され、教育委員会が承認または認知した組織に限ります。  
※3年間継続して活動いただける組織に限ります。  
※複数の小中学校の参画が必須です。

- ◎本助成対象は、学校、教育機関であり、教員個人を対象としたものではありません。
- ◎特別支援学校等も対象です。
- ◎高等専門学校は、1～3年生の活動が対象となります。
- ◎個別校助成、複数校連携助成は児童・生徒が主体的に行う活動が対象です。

2025(令和7)年度助成の

2024(令和6)年

募集期間 ≫ **10.1<sup>火</sup> - 11.30<sup>土</sup>**

助成採否のご連絡は  
3月上旬に致します

### 応募 方法

当財団ホームページにて、募集要項、FAQを確認の上、ウェブ申請してください。  
トップページの「マイページ」より基本情報登録(ID取得)を行ってください。

### 過去の 助成数

2024(令和6)年度  
2023(令和5)年度  
2022(令和4)年度

【個別校】 **73件**  
【個別校】 **64件**  
【個別校】 **59件**

【複数校連携】 **32件**  
【複数校連携】 **33件**  
【複数校連携】 **33件**

【教員支援】 **20件**  
【教員支援】 **16件**  
【教員支援】 **14件**

お問い合わせ先



公益財団法人  
中谷医工計測技術振興財団

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号  
国際健康開発センタービル(IHDビル)5階 神戸分室 科学教育振興助成担当  
<https://www.nakatani-foundation.jp/>  
お問い合わせは、上記HPの「お問い合わせフォーム」よりお願いします。



中谷財団 検索

後援



文部科学省

# CASE STUDY — 事例紹介

## 複数校連携助成

栃木県立那須拓陽高等学校（栃木県）

### 在来ダイズの有機栽培と品種保全に関する研究

— 農・工・福連携による取り組み —

那須塩原地区にある県立3校が農工福連携で地元在来大豆の研究をおこなった。那須拓陽高校では様々な在来大豆の有機栽培研究をおこない、「匂い」で重さが変化することを発見した。また、那須特別支援学校では小規模栽培やマルシェでの大豆製品販売を、那須清峰高校では収穫後に種子を選り分ける粗選機に唐箕機能を搭載した機械開発をおこない、それぞれの高校で成果を上げることができた。今後も大豆自給率の改善や在来大豆の品種保全に向けての取り組みを続けていく。



## 個別校助成

石川県立七尾高等学校（石川県）

### 環境DNAによる能登地域の河川の魚類相調査

— 特に代表種や希少種を中心として —

淡水魚類の多様性は、河川改修や外来種の導入、気候条件等の影響により変化していると考えられる。これらの影響を検討するため、校内のDNA解析機器を活用し七尾市内50地点で環境DNAによる魚類相調査をおこなった。抽出キットを用いてDNAを抽出し、アユとドジョウの種特異的解析と次世代シーケンサーによる網羅的解析を実施した。能登地域の河川生態系は能登半島地震で大きな影響を受けたが、今回の調査により震災前の貴重なデータが取れている。今後は他校と協働し調査対象を能登全域に広げると共に、震災の影響も明らかにしたい。



## 個別校助成

岡山県立岡山操山中学校（岡山県）

### 生徒の自主研究をリベラルアーツに発展させる実践

— 生徒の主体的運営による研究レベル向上サイクルのシステム開発 —

「自由で独創的な議論の場」をテーマに、生徒による企画・運営で校内研究発表会「Sozan Liberal Arts」を年間12回実施、生徒の研究発表のほか、生徒が招聘した専門家による講演会などを行った。異分野の研究が交わり新しい発想が生まれリベラルアーツへの発展が見られたほか、生徒が運営に携わることにより、外部支援の獲得、課題解決に向けて主体的に実行する人材育成、アントレプレナーシップ教育など、当初の目標を大きく上回る成果を得た。



東京都立国分寺高等学校（東京都）

### 伊豆諸島・小笠原諸島における天然記念物カラスバトの保全生態学研究および生徒主体の啓蒙活動

生物部では伊豆諸島における天然記念物カラスバトの生態解明を目的に13年前から研究している。昨年はGPS装置を装着し送られてきたデータからカラスバトの季節ごとの活動時間や行動記録を観測したほか、カラスバトの音声データを解析し鳴き声と行動の関係の解明を目指し取り組んだ。今後はさらに島嶼の小中高校と研究成果を共有、日常的な観察や合同調査を実施し、島の生徒のカラスバトの保全意識向上にも努めたい。



愛知県立安城農林高等学校（愛知県）

### 地域と共にニホンミツバチの繁殖とSDGsへの活用

— ニホンミツバチの新たな価値の可能性と生態調査について —

フラワーサイエンス科で栽培しているキンリョウヘンの花にはニホンミツバチの分蜂の際に群を誘引する作用がある。そこに着目して、在来種であるニホンミツバチの校内繁殖を研究テーマに「プロジェクトBee」を立ち上げて7年、養蜂に適した気候や豊富な蜜源、養蜂技術の向上により生息数を維持している。近年ではセイヨウミツバチにはない新規の価値を発見、ニホンミツバチの蜂蜜に含まれる酵母を用いた食品開発など産学民官と連携して様々な活動の輪が広がっている。



## 教員支援助成

小郡市立御原小学校（福岡県）

### 触れて作って理解! めざせ実践型ICT教育

— GIGAスクール構想のその先へ:多彩な深化と連携で育むICT教育の輪 —

行政や教育委員会のバックアップのもと、多彩なノウハウをもつ高等教育機関及び地元の民間企業と連携して、ICT教育分野に関する経験や知見を積み上げることを目指し、授業や科学クラブでの活用、教職員の研修等を実施、その成果は『小郡モデル』として市内各校への波及に努めている。また小学校教育現場の課題を高専等の持つICT技術によって解決する機器を共同開発しており、教諭の業務軽減・効果的な教育・学校管理運営に資する取組としてさらに開発を進め将来的には実用化を目指したい。



大学・高専を対象とした5年間の

次世代代理系人材育成プログラム助成も募集しています。

詳しくはHPをご覧ください。